

## 講に地蔵盆にトンボに集う ～五個荘塚本町自治会の“集い”の場～

**五個荘塚本町**は、人口229人、72世帯、高齢化率約26.5%の自治会である。塚本村地蔵堂には、聖徳太子が創ったとされる地蔵菩薩が祀られている。「文化継承」という意味合いも込め、男性が行者講、女性が地蔵講を営む集いの場となっている。また、75歳以上の方の集いの場である「とんぼの集い」が開催されている。

### 1. 行者講と地蔵講

五個荘塚本町（以下、塚本町）の塚本村地蔵堂のお地蔵様は、五個荘6地蔵の1軀であり、信心すると「災難の来るときには、尊像より御汗を流し、救い給う」といわれている。

この地蔵堂で、「塚本行者講」と「塚本地蔵講」が営まれている。

行者講は、講に入っている人が、毎月6日に集まってお経をあげるのである。以前は、一戸につき男性1名が講に入っていたという。当番表が作成されていて、現在、男性26名が当番を回している。

当番は毎月6日の朝にお堂の掃除を行う。そして花と供物を供え、夜にお堂に集まりお経をあげる。集まるのは約10名である。

お経をあげるだけでなく、男性同士のコミュニケーションの場となっており、月1回の男性サロンの場になっている。

民生委員・児童委員の奥満さんは「文化継承」という意味合いも込めてやっています」と話す。

女性は「地蔵講」を作っている。「尼講」と言われ、奇数月の23日、地蔵の日に女性が集まってお経をあげる。行者講とは異なり、13時から15時までで、導師は録音音声を務める。

尼講で集い、いろいろな話題で盛り上がる。こちらは、2ヶ月に1回の女性サロンの場になっている。

### 2. 地蔵盆

地蔵盆は毎年8月23日～24日に近い土曜日



塚本地蔵堂



塚本地蔵堂の神變大菩薩

と日曜日に行われる。初日の18時から20時頃までは、塚本町のスポーツ推進員8名が自治会館と地蔵堂周辺一帯で「納涼模擬店」を開催する。模擬店を出したり、イベントを行ったりして賑やかである。

塚本町の自治会館は、近江商人の川島與左衛門の邸宅の一部を移設したものである。箱階段や蔵もあって大変風情がある自治会館である。この風情も地蔵盆を演出する。

そして、19時半から21時までは尼講の女性たちが御詠歌を奉じ、町内の方々がお地蔵様にお参りする。2日目は、男性陣が19時半から御詠歌を奉じる。

20年度ほど前に運動会を開催しなくなったが、地蔵盆は塚本町の住民の交流を深める場となっている。

### 3. とんぼの集い

塚本町では「お茶のみサロン」と「とんぼの集い」が開催されている。

「とんぼの集い」は20年以上続く75歳以上の方を会員とするサロンである。その名称は「とんぼのめがね」という童謡が起源になっている様である。

現在31名の会員がいて、自治会長、福祉推進委員会、自治会の女性ボランティア6～7人がスタッフとなり6月、9月、3月の年3回開催する。「プラザ三方よし」を会場に余興を楽しむ、お昼ご飯を食べる。一時期は、隣の五個



とんぼの集いの様子（令和元年）

荘石川町と合同で開催していたが、今は、単独開催となっている。

今年はコロナ禍で9月に予定していた「とんぼの集い」は中止となった。スタッフが3班に分かれて31名の会員に自治会からのお菓子と市のお祝いのお饅頭をもって訪問した。

「とんぼの集い」も、参加してほしい人がなかなか参加してくれない。しかし、放っておかない。

奥さんは「民生委員活動として見守りをしています。夕方には電気がついているかを確認したり、たまにのぞきに行ったりして声掛けをします」と話す。

### 4. 新しい世帯・世代が融合して

最近新しい団地もできた。そして自治会に参加する若い世代が増えてきている。

自治会長の逸民（はやみ）秀朗さんは28年前に五個荘塚本町に移り住んだ。

「前に暮らしていたところでは地蔵盆の行事はありませんでした。行者講や地蔵盆をみると塚本町の歴史を感じます。」と話す。そして「いろんな方が声をかけてくださいます」と話す。

奥さんは「塚本町に来てくれる人は良い人ばかりでありがたいです」と話す。

祖先から受け継いだ文化継承の営みに、新たな世帯・世代が融合してさらに形を変えながらも継承されていくのである。



五個荘塚本町自治会館